

平成 29 年度 さざなみっこ保育園 評価の公表

保育者が保育の質の向上を図る目的で実施した、自己評価に基づき、園全体としての評価、課題、今後の目標を検討し、保育計画・保育実践の共通理解を図り、保育がより良いものになるよう、園の自己評価として公表いたします。

園全体の評価

●今年度の評価

- ・保育者が子どもの発達に寄り添った保育を計画し、実践することができた。
- ・子どもの健康と安全に配慮した保育実践を行った。
- ・日々の遊びを通して、体力づくり（散歩、戸外遊びなど）ができた。
- ・畑や田んぼの一連の活動を通して、子どもが食育活動に関わることができた。

畑の活動 ⇒ 畑の草むしりから始め、土壌づくり、うねづくりを行った。その後、野菜の苗植え、水かけ、収穫までの一連の流れを子どもたちに体験させることができた。

田んぼの活動 ⇒ 子どもたちと一緒に、もみから種づくりをすることができた。

田んぼの水入れ、土壌づくりの際は、子どもたちが、田んぼに入り、足で土を踏みならした。

子どもたちが、田植え、稲刈り、脱穀、精米まで参加し、収穫したお米を使って、餅つき会で臼と杵を使い、親子で楽しく参加した。

●今年度の気づき

- ・各クラスでは、子供に寄り添った保育実践を実施できたが、異年齢児間での交流をもっと多く取り入れていきたい。
- ・低年齢児クラスは、体力づくりや脚力強化を図る目的で、戸外での活動を積極的に取り入れていきたい。
- ・畑に植える野菜の種類や時期を子どもたちと一緒に考える機会を設ける。また、低年齢児の食育活動については、園庭菜園をつくり、水かけや野菜の収穫などの体験をさせる。

●次年度の目標

- ・各クラス間での情報を共有し、保育計画・保育実践に繋がられるようにする。
- ・3・4・5歳児クラスを中心に戸外活動を積極的に行う。低年齢児クラスは、個々の発達と健康状態に配慮し、個別での戸外活動を取り入れる。
- ・園庭菜園を整備して、土壌づくりを行い、環境調整を図る。
- ・食育リーダーを中心に記録を残し、新聞などの掲示物等で、食育の取り組みについての情報を発信する。

【食育と体力づくりについて】

園の周辺には、田んぼや畑があり、子どもが自然や土に触れあう機会を多く持てる、素晴らしい環境がある。そこで、子どもが田んぼや畑（野菜作り）を通して、野菜に触れたり、土に触れたりと楽しみながら食育に参加し、自分たちで育てた野菜を収穫する喜びや感動、達成感を味わうことに繋がる。また、子どもたちの生きる力と、自ら工夫する知恵を育てる。

散歩や戸外遊び、食育活動を通して、足腰の強化を図り、大きなケガをしにくい身体づくりを目指す。

《平成 29 年度 計画と実践》

- ・畑や田んぼの整備、土壌づくり、野菜の苗植え、水かけ ⇒ 2・3・4 歳児が実施。
- ・水かけを保育活動前に行っていたため、参加できる園児が限られた。

《平成 30 年度 保育計画》

- ・畑や田んぼの整備、土壌づくり、野菜の苗植え、水かけ ⇒ 3・4・5 歳児が実施する。
※水かけについては、各クラスで曜日別などの当番を決め、それをルール化していく。それによって、子どもたちの責任感と使命感を培うことに繋げたい。
- ・園庭菜園の整備、土壌づくり ⇒ 2 歳児が中心となり実施する。
- ・園庭菜園の観察、水かけ ⇒ 0・1 歳児も参加し、全クラスで実施する。

【総評】

保育者が自己評価を実施し、自身の保育観を振り返り、専門職としての意識を高め、園全体の保育の質の向上に取り組むことができた。また、報告・連絡・相談、情報共有の重要性や、保育実践において、保育計画に基づき、遊びや食育活動を通して、子どもの心と身体の成長・発達、相互的な保育の充実に繋げていきたいと思う。